

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和7年度全国中学校体育大会 バスケットボール大会	派遣期日	令和7年8月21日～24日
報告者	岩瀬寛明	派遣先	鹿児島県鹿児島市・薩摩川内市

1 大会概要

大会名称	令和7年度全国中学校体育大会 バスケットボール大会	大会期間	令和7年8月21日～24日
大会概要	各ブロック代表校による予選リーグののち、決勝トーナメントによる優勝決定戦		

2 担当試合

※(試合内容は簡潔に書いてください)

日程	令和7年8月22日	会場	サンアリーナせんだい
審判クルー	CC: 岩瀬 寛明 (香川) U1:入江 隆介氏 (鳥取) U2:中山 好美氏 (鹿児島)		
担当試合	女子予選リーグ 相模女子 (関東1) VS 浜松開誠館 (東海2)		
試合内容	サイズで上回る相模女子が終始リードする試合であった。浜松開誠館も鋭いドライブで得点を重ねるが、リードを守り切った相模女子が勝利した。		

日程	令和7年8月23日	会場	西原商会アリーナ
審判クルー	CC: 前田 隼大氏 (鹿児島) U1:岩瀬 寛明 (香川) U2:川畑 龍輝氏 (鹿児島)		
担当試合	男子準々決勝 四日市メリノール学院 (三重) VS 野々市市立布水 (石川)		
試合内容	両校ともフィジカルが強く、4Q 残り数秒まで同点と緊張感のあるゲームであった。最後に得点したメリノールが逃げ切り、勝利した。		

3 大会(研修会)を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

○加藤 晓生氏 (全国大会のコートに立つにあたっての全体周知)

・リーグ戦の意味

初日はリーグ戦であることから、得失点差を考えたレフリングが必要である。とくに4Q 残り数秒でのファウル、バイオレーション等、フリースローの可能性やボールのポジションが変わり、ショット

を放つ可能性があるような状況において、試合終了まで集中して臨むことが求められる。

・ケガの未然防止

過去の全中大会で起こったケガの記録では、決して少なくない選手が大会期間中にケガでチームを離れることがあった。中学生最後の試合をケガで終わらせないためにレフリーとして何ができるか、その未然防止の一端を担えるような存在でなくてはならない。

・TOとの協力

TOとして参加している地元中学生や役員の先生方とのコミュニケーションをしっかりととり、協力体制を確立すること。特に、大切な場面でのミスを役員中学生に負わせることのないよう、アイコンタクトも含めて、確認を繰り返しながらゲームの運営にあたる。これらが確実にできていると自然と処置ミスも減らすことができる。

○前田 隼大氏（グループでのスカウティング演習・討論）

・試合を担当するにあたっての心持ち

全中出場校に私たちレフリーが名前負けしないことが大前提。それぞれのレフリーが地元では見たことのないようなプレーも起りうるが、シンプルなプレーコーリングの実践の積み重ねが最も求められる。

・クルーワーク

「知らない」が最も危険。自分以外に2人コートにいるので、だれかは「知っている」という状況を確実に作る。そのため、ゲーム中に情報の共有を積極的に行うことで、「知らない」から「気にする」ようになる。何かあったらクルーが吹いてくれるという信頼をし、吹き急がないこと。

・オフボールの危険性

「プレーの始まりはオフボールから」を大切にする。何か起りそうな予感は、ささいなことでもクルーで共有する。そのためのプライマリーエリア。

・全国大会のコートに立つレフリーとして

互いへの信頼関係から、セカンダリーで飛び込むのならケイデンスを心がける。まずはプライマリーを優先。（気づいているのは素晴らしいが）

4 その他

今大会では、大会前日に台風が鹿児島に上陸し、審判員のみならずチームですら鹿児島入りが困難な状況にあった。また、大雨・暴風警報により翌日からの大会の開催が危ぶまれるという状況にも見舞われた。そのような状況にも関わらず、適宜情報を発信してくださった鹿児島県の審判員、大会運営のために悪天候の中来場した地元中学生役員など、多くの人の協力があって成功した大会であると痛感している。3年前の香川IH、2年前の香川全中の際にご協力いただいた審判員の方々もおり、たくさんの温かいお言葉をいただいた。開催県は輪番であるが、IHや全中での他県審判員とのかかわりやおもてなしが引き継がれていっているのだと強く感じた。

コートに立つこと以外にもたくさんの気づきや学びがあった全中大会でありましたが、派遣に際してご配慮いただいた香川県協会の皆様にも感謝申し上げます。